

3. 計画理念・基本方針

3-1 設定の視点

これまでの札幌市は、人口増加と市街地の拡大、交通需要の増加など量的な対応のため交通施策に取り組んできましたが、これからは、少子高齢化社会への対応、環境問題など質的転換への取り組みが求められています。

そのため、「札幌市総合交通計画」では量的課題への対応だけではなく、理想とする「将来都市像」を実現すべく、総合的・戦略的に交通施策を展開していくために、創造的な視点で「計画理念」及び「基本方針」を設定します。

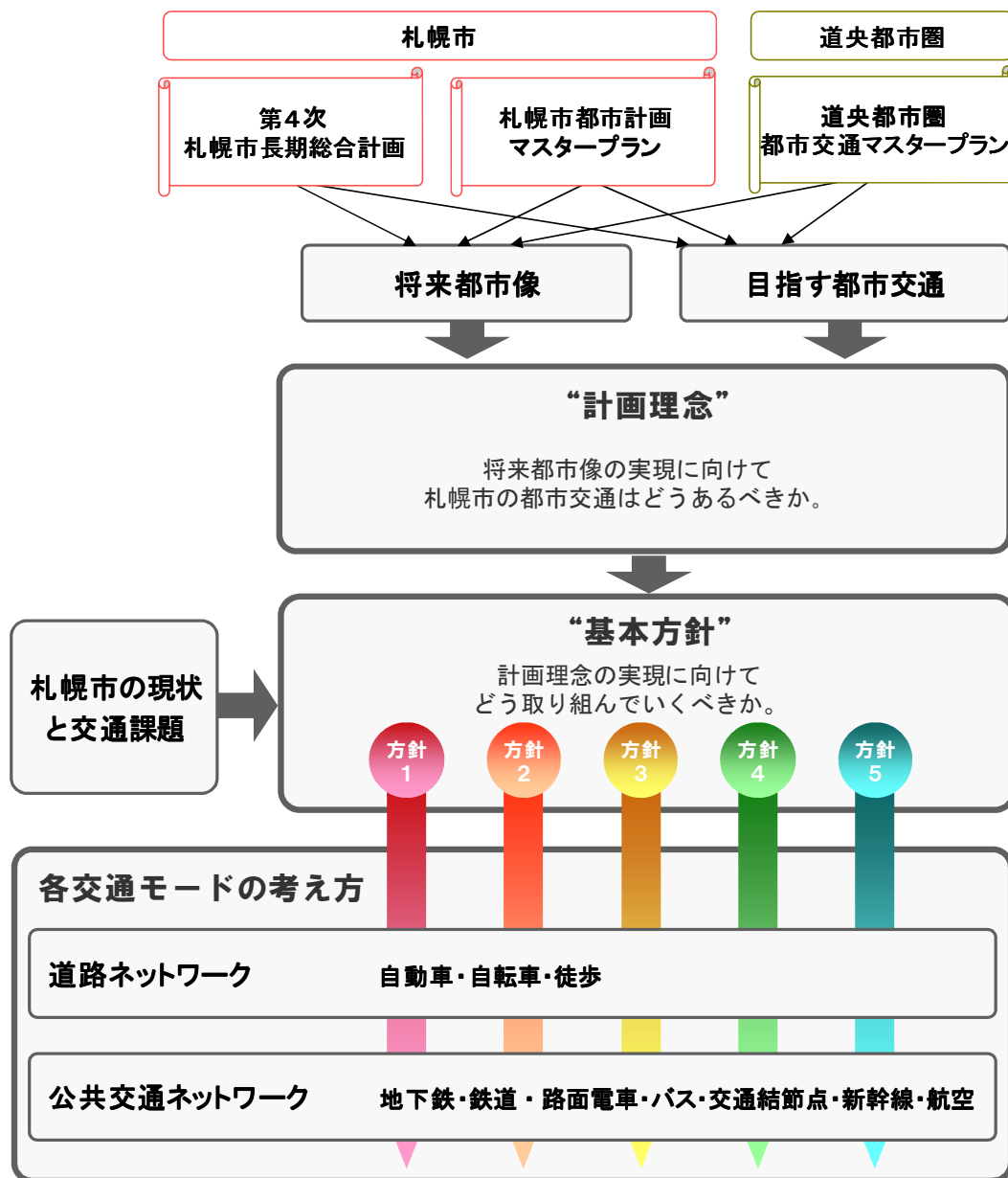


図 3-1 第1編（基本的な考え方）の検討フロー

3-2 札幌市の「将来都市像」

本計画では、以下のとおり「第4次札幌市長期総合計画」等における「将来都市像」を踏まえるものとし、その実現に向けて札幌市の都市交通はどうあるべきか（“計画理念”）、そして、どう取り組んでいくべきか（“基本方針”）を整理します。

3-2-1 第4次札幌市長期総合計画（上位計画）

平成12年1月に策定された「第4次札幌市長期総合計画」では、基本構想で掲げる「北方圏の拠点都市」「新しい時代に対応した生活都市」の2つの都市像を受け、外延的拡大の抑制によるコンパクトな市街地の形成を目標に、「多中心核都市構造の実現」「都心縁辺部、地下鉄沿線等への居住の誘導」といった環境低負荷型都市構造への移行による持続的発展を目指しています。

これに応じる都市交通の将来像は「公共交通を軸とした交通体系の確立」「適切な自動車交通の実現」「広域ネットワークの充実」により、多様な都市活動を維持・創出していくことを目指しています。

さらに、都心を「多中心核都市構造の中心」としたうえで、魅力的で活力ある都心整備を進めるとしており、札幌の魅力向上につながる空間形成や、人にやさしい交通環境を確保していくことを目指しています。



図 3-2 多中心核都市構造を構成する主要な拠点と高度利用住宅地、居住促進ゾーン

3-2-2 札幌市都市計画マスタープラン（上位計画）

平成16年3月に策定された「札幌市都市計画マスタープラン」は、第4次札幌市長期総合計画を受けて定める都市づくりの全市的指針です。

「札幌市都市計画マスタープラン」では、これまでの拡大成長期の都市づくりから基本方向を見直し、『持続可能なコンパクト・シティへの再構築』を都市づくりの理念としています。

都市全体の視点からは、市街地の拡大抑制を基調として、既存都市基盤を有効に活用しながら都市の魅力と活力を向上させることとし、身近な地域の視点では、主として徒歩での移動が可能な身近な生活圏の中で、日常的な生活を支える多様な機能がまとまりをもって提供されることを目指しています。

また、今後の都市づくりにおいて、特に総合的な取り組みとして、「①都心の再生・再構築」「②多中心核都市構造の充実・強化」「③多様な住まい方を支える高い居住環境の実現」「④市街地の外の自然環境の保全と活用」「⑤オープンスペース・ネットワークの充実・強化」を都市づくりの力点と位置付けています。

「札幌市都市計画マスタープラン」における部門別の取り組み方針のひとつとして、「交通」を位置付けており、現行のマスタープランでは「交通」に関し、以下の基本方向を定めています。

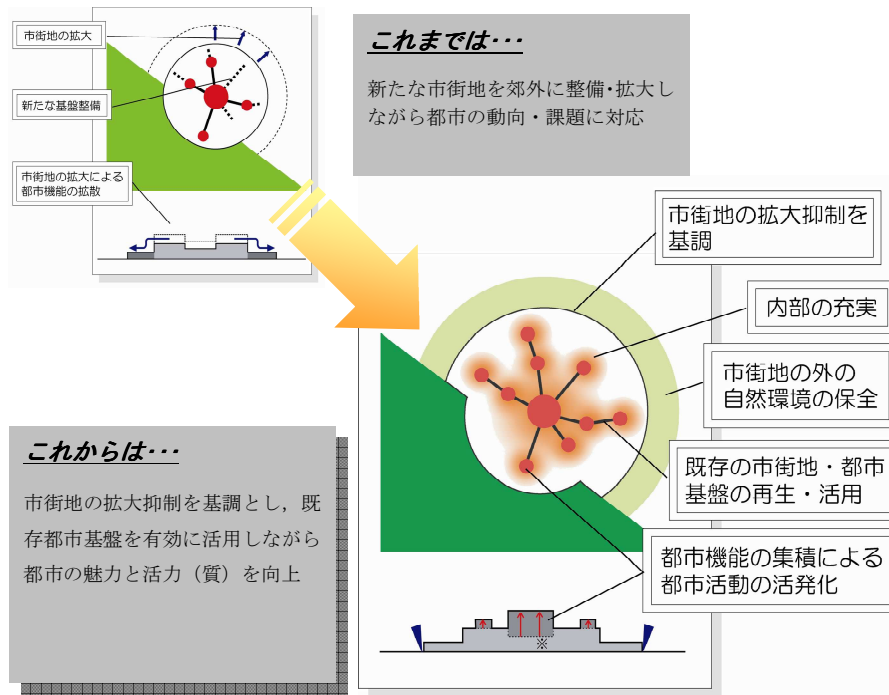
<基本方向（交通）>

■総合的な交通ネットワークの確立

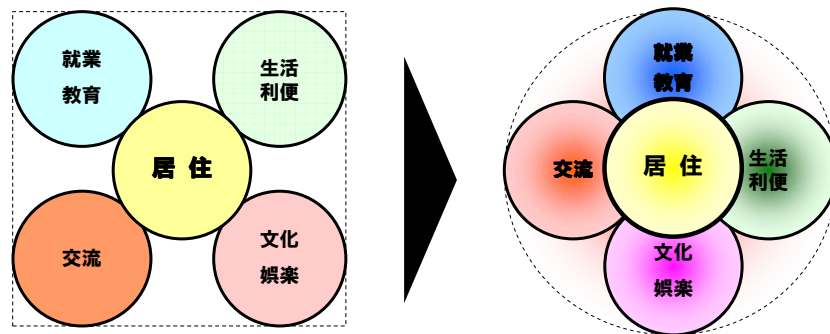
- ・公共交通を軸とした交通体系を確立
- ・必要な道路の整備や自動車交通総量の低減、流れの分散化などにより適切な自動車交通を実現
- ・広域的な交通に関わる安定的で利用しやすいネットワークの確立

■地域特性に応じた交通体系の構築

- ・地域特性やまちづくりの方向を踏まえた交通体系を構築



■都市機能配置のイメージ■



これまで...

- 各機能を明確に区分して配置
- 拡大, 拡散
- 機能の純化

からは...

- さまざまな機能が, 居住機能を中心にまとまりを持って構成
- 内部集約, まとまり (集積)
- 機能の複合

図 3-3 都市全体の視点 (上図) と身近な地域の視点 (下図) から見た「持続可能なコンパクト・シティ」

3-2-3 道央都市圏「都市交通マスタープラン」(関連計画)

札幌市を含む7市3町で構成される道央都市圏において、第4回道央都市圏パーソントリップ調査(H18-H21)が実施され、平成22年3月に道央都市圏における「都市交通マスタープラン」が策定されました。このマスタープランでは、国・道・各市町のまちづくりに関する上位計画、全国および道央都市圏の社会情勢などを背景とし、交通実態調査データの現状分析から浮かび上がった現状の問題、課題を整理することで、「暮らし」「活力」「環境」の3つの視点で「道央都市圏の将来像(計画理念)」と「目指すべき交通の姿」を設定しています。



図 3-4 道央都市圏の交通が目指すべき姿

(1) 計画の必要性

①人口増加に伴う経済成長からの転換

- ・人口減少下での持続的な発展
- ・グローバルな視点での競争力向上

②超高齢社会の到来

- ・歩いて暮らせるまちづくり
- ・公共交通の維持

③環境に対する意識の高まり

- ・環境負荷の少ない交通システム
- ・環境に配慮し、自然と共生する生活スタイルの実現

(2) 今後の計画を考える上で必要な点

- ・視点の転換 : “つくる” ⇒ “活かす”、“上手につかう”

(3) 「あるべき将来像」(計画理念)と「交通の基本方針」

暮らし **Life**

<あるべき将来像>

日常生活を支える拠点(都心、広域交流拠点、地域中心核)において、地域特性に応じた多様な都市機能の集積を図り、北国の文化を引き継ぐとともに、お年寄りから子供まで誰もが、安全、安心に暮らすことができる、利便性の高い都市を目指します。

<交通>

基本方針
(暮らし)

年間を通じて、どんなときも、誰もが安全、安心に暮らせる利便性の高い交通環境を実現する。

活力 **Vitality**

<あるべき将来像>

札幌都心には、道内・国内外と交流・連携する多様な機能の高度な集積を図ります。

また、周辺地域の都市生活エリアや産業・流通拠点、田園地域との連携強化も図ることで北海道経済を牽引するとともに、持続的成長を支える都市を目指します。

観光、物流、医療などで大きな魅力や安心を有する拠点と、国内外との交流・連携を支える2空港、3港湾、新幹線駅との連携強化を図ることで、道内、国内、国外の様々な人と人、地域と地域が交流・連携する活力と躍動感あふれる都市を目指します。

<交通>

基本方針
(活力)

都市拠点、産業拠点の育成と国内外に魅力をもつ拠点間の交流・連携を支えるなど北海道経済を支えるモビリティを確保する。

環境 **Environment**

<あるべき将来像>

地球温暖化などの環境負荷を低減させるとともに、周辺市町に存在する日本海に面した長い海岸線、広大な石狩平野と背後の丘陵地における豊かな自然環境と共生しつつ、田園居住や芸術・文化交流といった創造的都市活動など多様なライフスタイルを実現できる都市を目指します。

<交通>

基本方針
(環境)

環境に優しく、持続可能な都市を支える交通環境を実現する。